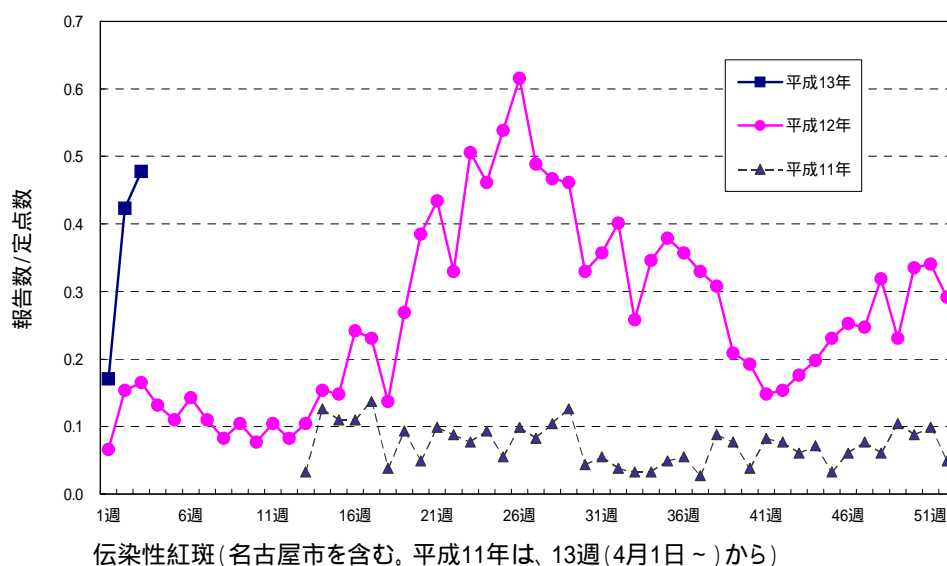


愛知県感染症情報

平成 13 年第 3 週（1 月第 3 週）

（コメント）

流行性耳下腺炎、水痘は、報告数は減少していますが、依然流行しています。感染性胃腸炎も流行しています。伝染性紅斑は、流行のきざしが見られますので注意してください。



（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- 麻疹 2歳男 水痘 6歳男ワクチン歴あり
感染性胃腸炎は相変わらず続いています但比較的軽いようです。
A溶連菌感染症が少し目立ちました。
(一宮市 あさのこどもクリニック)
- インフルエンザA迅速反応陽性者4名(5歳男、12ヶ月女、2歳女、4歳女) カンピロバクター陽性者 11ヶ月女
(尾西市 城後小児科)
- 水痘、ムンプス散発、伝染性紅斑、手足口病が見られます。インフルエンザ全くなし。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- インフルエンザまだわずかのみ。
(扶桑町 いずみ内科)
- 水痘、流行性耳下腺炎の流行は続いています。感染性胃腸炎は減少しています。まだインフルエンザの流行はないようです。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)

- ・ サルモネラ 59 歳男
(師勝町 師勝クリニック)
- 尾張東部地区
 - ・ 麻疹 2 名 (11 ヶ月男)。マイコプラズマ肺炎 3 名 (2 歳女、4 歳女、10 歳男)。感染性胃腸炎のうちカンピロバクター腸炎 9 歳男
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
 - ・ インフルエンザは全くありません。
嘔吐、下痢、乳幼児、学童でやや増加傾向あり (いずれも軽症が多い)。水痘小流行 (4 歳男児はワクチン接種あり)。その他突発疹、伝染性紅斑等散発。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
 - ・ 帯状疱疹 3 歳男
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
 - ・ 3 歳 7 月男口タウウイルス性腸炎など感染性胃腸炎が多くみられます
(春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ インフルエンザ A あるも少数。インフルエンザ流行まだない。他の感染症少ない。
(小牧市 小牧市民病院)
 - ・ インフルエンザ A 抗原陽性例 8 例あり
(小牧市 志水こどもクリニック)
 - ・ 流行性耳下腺炎 10 歳女 (ワクチン接種済み)
(東海市 小児科ハヤカワ医院)
- 西三河地区
 - ・ カンピロバクター (女 12 歳、14 歳 姉妹)
(豊田市 やふそ小児科)
 - ・ 病原性大腸菌 (0-18 3 歳男、0-1 2 歳男、0-115 1 歳男)
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
 - ・ カンピロバクター 2 歳女
(岡崎市 花田こどもクリニック)
 - ・ 病原性大腸菌 0-111 (+)、VT1・2 (-) 1 歳女
FluA (+) 5 歳男
(岡崎市 にいのみ小児科)
 - ・ 水痘、ムンプス引き続き目立ちます。
(碧南市 永井小児クリニック)
 - ・ インフルエンザ 1 人 麻疹 1 人 (前週の兄弟)
(知立市 宮谷こどもクリニック)

- ・ 水痘は減少。溶連菌感染症が増加（報告症例全て STREP テスト（陽性））
（西尾市 やすい小児科）
- 東三河地区
 - ・ マイコプラズマ肺炎の児が2名おりました。
（豊橋市 こどもの国大谷小児科）
 - ・ 今週に入って再び嘔吐、下痢の患者が増えてきました。水痘はピークを越したようです。
（豊橋市 あずまだこどもクリニック）
 - ・ 麻疹罹患児は、姉弟例にて 1月初め、大阪にて接触あり。
（田原町 かわせ小児科）

（1～3類感染症の発生状況）

腸管出血性大腸菌感染症患者2名。

- ・ 春日井保健所から報告の57歳女。平成12年12/26発病、12/27初診、平成13年1/11診定。菌型は、0-157 VT1・2（+）
- ・ 瀬戸保健所から報告の6歳男。平成12年12/26発病、平成13年1/1初診、1/15診定。

腸管出血性大腸菌保有者3名。

- ・ 瀬戸保健所から報告の48歳女（1/15初診、1/15診定）10歳男（1/17初診、1/20診定）いずれも菌型は、0-157 VT2（+）
- ・ 一宮保健所から報告の35歳女。1/18初診、1/18診定。菌型は、0-157 VT2（+）

（全数把握の4類感染症の発生状況）

レジオネラ症患者2名

第1週（平成13年1月1日～1月7日）の4類感染症の全国状況

水痘の定点当たり報告数が例年に比べやや多くなっており、新潟県で6.5、宮崎県で6.2、島根県で5.3となっている。咽頭結膜熱は冬季としては例年になく定点当たり報告数が多くなっている。麻疹は例年の同時期と比べ定点当たり報告数がかなり多く、とくに高知県、奈良県、鹿児島県、福岡県などで定点当たり患者数が多くなっている。インフルエンザの活動性はまだ低く、全国平均で定点当たり報告数0.25となっている。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

平成13年1月23日

愛知県感染症情報

愛知県衛生研究所企画情報部

(文責 磯村)

大雪の朝、自転車通学の高校生が下りの坂道が曲りきれなくて転倒続出、笑い声が響いています。自転車にもスノ-タイヤかチェーンが要りそうです。ところでいつも貴重な情報を有難うございます。1月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：インフルエンザの発生は例年になく少数です。数年前に1月下旬から流行が始まって2月がピークの年がありました。今回もそうした発生でしょうか。その場合に昨年早々とワクチン接種を受けた子供達で有効性はどうでしょうか。各地区の先生方からのご報告をお待ちしております。市内全域でウイルス性の胃腸炎・嘔吐下痢症が相変わらず発生しています。乳幼児を中心としたロタウイルス陽性の下痢症も少数例にみられますが、主体となっているのはロタウイルス陰性例で乳幼児や年長児から成人まで年齢巾が広く嘔吐のつよい例が主体で下痢は軽いようです。全体に軽症が多いようですが、脱水で入院の必要な例もあります(第一日赤有吉先生、名鉄病院宮津先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生；細菌性下痢症数例、労災病院山田先生、大同病院水野先生)。RSウイルス感染症を主体とした仮性クル-プ・細気管支炎・気管支炎・肺炎が相変わらず発生し要入院例も目立っていますが、マイコプラズマ肺炎の入院が目立つとの報告もいただきました(第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、労災・山田先生、大同・水野先生)。

その他、溶連菌感染症(名鉄・宮津先生)、高熱の感冒・咽頭炎(千種区今枝先生、労災・山田先生)、インフルエンザA陰性のウイルス性脳症(大同・水野先生)、膿痂疹とブ菌性火傷様皮膚症候群(城北・渡辺先生)、川崎病(第一日赤有吉先生)などのご報告で有吉先生からは麻疹の報告もいただきました。今後の流行に注目したく思います。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎がやや多く溶連菌感染症散発中、津島市民病院長田先生からは水痘、ムンプスが散発中で麻疹2例、江南市昭和病院西村先生からは水痘、川崎病、CRPの高い急性咽頭炎、岩倉市永吉先生からは急性胃腸炎が少々、インフルエンザ陰性の高熱の感冒あり、伝染性紅斑、高熱の感冒増加中、常滑市民病院上田先生からは相変わらずウイルス性胃腸炎多発中で脱水による要入院あり、突発疹(要入院例あり)、気管支肺炎・細気管支炎、細菌性腸炎(大腸菌、カンピロバクタ-)、アデノウイルスによる流行性結膜炎とムンプスが散発中とのお手紙をいただきました。

3. 三河地区：豊田地区からはRSウイルス感染症が目立ちロタウイルス感染症は散発中でマイコプラズマ感染症の小流行あり(トヨタ病院木戸先生、加茂病院梶田先生)、岡崎市民病院糸洲先生からは水痘、感染性胃腸炎が目立ち病棟では川崎病が多い、安城更生病院小川先生からは感冒性胃腸炎が多く成人も発症、ムンプスと水痘が散発、マイコプラズマ肺炎多発傾向が続いている、知立市近藤先生からはインフルエンザA陽性例3例、感冒性嘔吐下痢症多発、溶連菌感染症やや多い、刈谷市田和先生からは嘔吐症とムンプス、水痘、溶連菌感染症いずれも散発、碧南市永井先生からは水痘が目立つ、豊橋市宮澤先生からは水痘、嘔吐下痢症が少数例ありとのお手紙でした。

4. インフルエンザの流行期です。先生の地区のインフルの年齢、主症状(最高体温と持続、二峰性)、ワクチン接種状況など是非お知らせください。有難うございました。

2 0 0 0 年 1 2 月 1 5 日号 (7 5 卷 5 0 号)

エボラ出血熱続報：ウガンダ。1 2 月 8 日時点で 405 例 (死亡 160 例)。地域集積が相変わらず強く、新しい確認例はマシディ地区だけで他の地区では報告なし。

単一の原因によらず、社会経済的・政治的理由などが根底になって感染症の多発をひきおこしている開発途上国が多い：難民・避難民の死亡は世界全体の死亡の 6 0 倍となっているが、その 7 5 % は感染症 (特に麻疹、下痢症、急性呼吸器感染症とマラリアとエイズならびに結核) である。本報告は主たる問題点の指摘と解決の勧告である。

麻疹：地球規模の根絶計画。ワクチンの有効性は、世界の年間麻疹罹患数を 8 千万例、死亡 450 万例の減少に成功したがいまだに年間の罹患者は 3 千万例、死亡数は 89 万例となっている。本報告は 2000 年 5 月のユニセフ、米合衆国防疫センター (C D C) による会議の結果の概略である。疫学的な調査から開発途上国では現行の生後 9 ヶ月での 1 回接種では抗体獲得率は 8 5 % であり、追加接種が勧告されているが 1 回接種の接種率すら低い地が多い事が問題となる (国別接種率について世界地図あり)。以下、麻疹死亡減少のための実働計画：予防接種普及プログラムの活動、定期接種と住民一斉接種計画の進展、地域単位の正確な患者発生状況の把握、現地調査に基づく流行状況とワクチン接種状況の解析、に関する勧告がまとめられている。

インフルエンザ：本年 11 - 12 月。ベルギー - : A 型、B 型。ドイツ：A 型 H 1 N 1。イラン：A 型 H 1 N 1。イスラエル：A 型 H 1 N 1。

1 2 月 8 日 - 14 日届出疾患：コレラ。マダガスカル、モザンビーク、南アフリカ。

2 0 0 0 年 1 2 月 2 2 日号 (7 5 卷 5 1 / 5 2 号)

2 0 0 0 年 7 5 卷索引号。

2 0 0 1 年 1 月 5 日号 (7 6 卷 1 号)

黄熱病：ギネア。1 2 月 2 7 日時点で 512 例 (死亡 190)。同国東北部。W H O、ユニセフ、国境なき医師団が当局と協力して対策中。

エボラ出血熱続報：ウガンダ。1 月 2 日時点で 426 例 (死亡 172)。新しい確認例はマシディ地区だけで他の地区では報告なし。

コレラ：南アフリカ。昨年 8 月の流行開始以来 1 2 月 2 9 日時点で 11,183 例 (死亡 5 1)。

結核：欧州地区。多剤耐性 (他の薬剤耐性の有無を問わず I N H とリファンピシン耐性の菌) について H I V / A I D S 患者をはじめ大きな問題となっている。本報告は最近の W H O / 結核と呼吸器疾患国際会議の最近の報告の概略である。郵送による調査を 1998 年に実施、欧州地区 5 1 カ国のうち 4 7 カ国から回答あり、3 2 カ国が薬剤耐性調査を実施していた。薬剤耐性菌流行状況は国による差が大きく、人口百万当りベラル - シュの 3.2 から英国の 0.1 まで分布していた。調査法の標準化と細菌学的検査と臨床的サ - ベイランスの強化が望まれることが強調されている。

ポリオ。W H O 各ブロックにおける届出数。

インフルエンザ：1 2 月。フィンランド、イラン、イスラエル、スロバキア：A 型 H 1 N 1。

1 2 月 2 2 日 - 1 月 4 日届出：コレラ。マダガスカル。